



奈良県立医科大学眼科ニュースレター Vol. 26

ご挨拶

教授 緒方奈保子

皆様いかがお過ごしでしょうか？

まずは第39回日本眼循環学会（2023年7月22日-23日：奈良県コンベンションセンター）を無事終えることができましたことをご報告させていただきますとともに、皆様のご協力に心より感謝申し上げます。おかげでまで、今までで最高の参加登録者数となりました。関係者の方々に厚く御礼申し上げます。招待演者として”pachychoroid”で著名なBailey Freund先生にニューヨークから来ていただきご講演いただくことができましたし、学会のメインイベントとも言うべき松山賞受賞講演は滋賀医大の大路正人先生で、どちらのご講演も本当に素晴らしい内容でした。

眼循環学会の頃はとても暑かったのですが、ここ数日で急に寒くなり紅葉そして落ち葉のシーズンです、いよいよ冬になりました。街にはマスクの人も少なくなり（最近ではCOVID-19ではなくってインフルエンザ予防のマスク？が増えてるかも。。）ほぼコロナ前と変わらなくなりました。

海外の学会に参加する人も増えており、今回AAO（American Academy of Ophthalmology）に参加しました。今年はサンフランシスコでの開催で、渡米前には、サンフランシスコは治安が悪くなっている、と随分脅されました。確かに、通りによっては歩道にテントを張って浮浪者が寝ていたり、薬物中毒？と思うような人がうろろろしてたりする所もありました。久しぶりに参加したAAOは今までよりかなり参加者が少ない印象で、会場も狭く思いました。バーチャルでの参加者が多いためでしょうか？コロナ禍に入局した若い先生たちはリモート参加の学会、勉強会に慣れてしまっていてリアル学会への参加経験が乏しくなってます。今回AAOに参加した若い先生はリアルの国際学会でかなりモチベーションが上がったようです。

サンフランシスコの近郊にはワインで有名なNAPA バレイがあります。ぶどう畑が延々と続いていました。ブドウの木は実を摘まれたあと葉を落とすそうで、ぶどう畑の紅葉が綺麗でした。もう今年も残すところ少なくなります。来年が平和な年であることを願って、最後のニュースレターのご挨拶とさせていただきます。

（写真1：Bailey Freund先生ご夫妻と）



（写真2：ブドウ畑の紅葉）



講演会

第24回奈良県眼科万葉フォーラム

2023年10月14日に、THE KASHIHARA で開催されました。岡山大学学術研究院医歯薬学域 眼科学教授 森實 祐基先生 に、黄斑手術の最近の話題について、講演していただきました。手術に関してわかりやすく講演して頂き、大変勉強になりました。ありがとうございました。

慶應義塾大学 眼科学教室 教授 根岸 一乃先生には、Refractive cataract surgery～屈折矯正手術としての白内障手術～についての講演でした。白内障手術の最先端の現状を伺うことができ、大変興味深かったです。ありがとうございました。

異動の御挨拶

藤原先生が助教に就任され、井本先生、森本先生が大学に、名和先生が市立奈良病院に異動されましたので挨拶をしていただきます。

藤原 克彦（奈良県立医科大学 眼科学教室 助教）

2023年10月から助教に就任させていただきました。

また今年度から大学院にも進学することになり、臨床だけでなく研究や教育などの業務も尽力させていただきます。

日々精進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

井本 翔（奈良県立医科大学附属病院 眼科 医員）

2023年10月より奈良医大で勤務させて頂いております。

奈良県の眼科医療とバファローズの勝利に貢献できるよう努めて参ります。よろしくお願い致します。

森本 佑（奈良県立医科大学附属病院 眼科 医員）

市立奈良病院より2023年10月に戻って参りました。

久しぶりの環境でまだ少し慣れない部分もありますが、できることを増やして地域医療に貢献していけるよう頑張っていこうと思います。

まだまだ未熟な身ではございますが、これからも何卒よろしくお願い申し上げます。

名和 賢斗（市立奈良病院 眼科 医員）

2023年10月より市立奈良病院で勤務することになりました。まだまだ未熟ながら、精一杯精進し少しでも眼科医療に貢献できるように頑張ります。今後ともよろしくお願い申し上げます。



学会の報告

第39回眼循環学会 2023のご報告



上田 哲生（奈良県立医科大学 眼科学教室 准教授）

第39回日本眼循環学会を終えて

2023年7月22日～23日 奈良県コンベンションセンターで行いました第39回日本眼循環学会では、事務局長を務めさせていただきました。前回、奈良医大で学会を主催したのは、私が入局して1年目の頃なので、今回の経験はすべてが初めてのことであり、非常に緊張しました。会場の配置やプログラム編成、資金面など、学会運営はこんなにも大変なんだと痛感いたしました。医局の先生も良く協力してくれ、JTBコミュニケーションデザインとの打ち合わせもスムーズに進み、学会中も大きなトラブルなく運営することができ感謝しています。また、シンポジストとして、pachychoroidの概略を講演させていただきました。緒方教授の在任中に、非常に多くの経験をさせていただき非常に感謝しています。同窓会からも学会に御寄付いただき、また多くの先生方にも参加していただき、700名を超え本学会としては非常に盛大に開催することができました。これからも、医局運営にご理解とご協力いただけるよう、医局員一同励んでまいりますのでよろしくお願いいたします。



西 智 (奈良県立医科大学 眼科学教室 講師)

コ・メディカルのための教育セミナーにおいて、小児眼科と眼血流を担当させて頂きました。小児眼科での血流評価における OCT、OCT-A の有用性に関して、実際の症例を交えて講演させて頂きました。教育セミナーでしたので、図を使用してわかりやすく講演できたかと思います。また、招待講演で来ていただいた K. Bailey Freund 先生

(Vitreous Retina Macula Consultants of New York) を伊丹空港までお迎えに上がらせて頂き、辻中先生と一緒に奈良公園と東大寺の案内をさせて頂きました。コロナ禍で海外旅行に行くことができず、最近全く英語を話していなかったのが緊張しましたが、とても気さくな先生で楽しくご案内させて頂くことができました。久しぶりに大仏殿に行くこともでき、やはり奈良は良いところだと感じました。

招待講演では、How Understanding the Histologic Basis of Retinal Imaging Findings in AMD Can Improve Current and Future Patient Outcomes と題してお話頂きました。動画での最先端の画像処理による解説がわかりやすく、新たな視点から AMD を理解することができたと思います。



治村 寛信 (奈良県立医科大学 眼科学教室 助教)

今回奈良医大にとっては久しぶりの学会主催となり、準備段階からいろいろな先生が尽力されておりました。私はというところあまり大した役にも立たず、先輩や後輩医局員の働きぶりを応援するばかりでした。当日会場ではいろいろな懐かしい出会いがありました。東京女子医大でご活躍されている長谷川先生は僕が入局して 1 年間奈良でお世話になり、それ以降お会いできておりませんでした。ほぼ 10 年ぶりにも関わらず気さくにお声をかけていただき、うれしかったです。「長谷川先生、いつかの当直中に蔵王のスキー場についてご教授いただきましたよね、機会があれば蔵王でスキー一緒したいです!!」また市立奈良

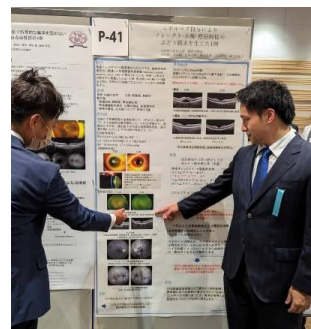
病院時代にお世話になった松下先生にも 9 年ぶりにお会いすることができました。「松下先生、いつかいただいた南奈良就任祝いの焼酎の魔王、大事にしすぎてどっかっちゃいました。これ見てくださってたらまた飲みに行きましょう」本題の学会発表は指導医である吉川先生に演題を捻出していただき、ipRGC 機能と視神経乳頭血流についての発表をさせて頂きました。吉川先生は御自身のシンポジウムもある中、大半の時間を割いて協力していただき感謝しかありません。拙い発表となりましたが、このような場で発表させて頂いたことはいい経験となりました。本当にありがとうございました。

平井 宏昌 (奈良県立医科大学 眼科学教室 助教)

この度、先日奈良で開催されました第 39 回日本眼循環学会にて、「1 型脈絡膜新生血管症 (CNV) における脈絡膜構造の解析」をポスター発表させて頂きました。南奈良医療センターに異動していた際にデータをまとめて、時間があるときに大学に来て作成させて頂きました。少し大変でしたが、無事に発表を終えることができました。データ収集にてお世話になりました、山下先生、伊集院先生、治村先生、内容に関しまして貴重なご指摘を頂きました西先生、上田先生、緒方教授に心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

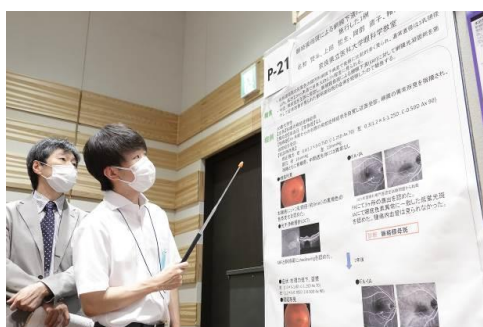
沢田 敦（奈良県総合医療センター 眼科 医員）

第39回日本眼循環学会にて、ニボルマブ投与によりフォークト-小柳-原田病様のぶどう膜炎を生じた1例についてのポスター発表をさせていただきました。初めての現地発表で、大変緊張しましたが、今後に役立つ経験ができました。他病院の先生方の発表も現地で拝見でき、大変勉強になりました。今回学んだことを今後の診療に生かしていきたいと思っております。ご指導いただきました緒方奈保子教授、辻中大生先生に心より感謝申し上げます。



名和 賢斗（市立奈良病院 眼科 医員）

第39回日本眼循環学会にて、脈絡膜母斑による網膜下液に対して網膜光凝固術を施行した一例について学術展示の発表を行いました。初めての学会の現地参加かつ発表ということで非常に緊張しましたが、良い経験・刺激になりました。他にも多くの講演を聞くことができ大変勉強になりました。ご指導くださった緒方教授をはじめとする先生方に心から感謝申し上げます。



第59回眼感染症学会のご報告

井本 翔（奈良県立医科大学附属病院 眼科 医員）

第59回眼感染症学会にて症例報告をさせていただきました。フロアではマイクに行列ができる大盛況ぶりで御高名な先生方より多くのアドバイスを賜り、貴重な経験となりました。

森本 佑（奈良県立医科大学附属病院 眼科 医員）

眼感染症学会にて症例報告をさせていただきました。コロナ禍の影響もあって学会現地での発表は今回が初めてとなり、大変緊張いたしました。現地開催が久しぶりなこともあってか会場での議論や質疑応答も活発だったように思いますが、無事発表を終えることができました。発表に際して、ご多忙にもかかわらずご指導ご鞭撻をくださいました皆様に改めて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

第77回臨床眼科学会のご報告

水澤 裕太郎（奈良県立医科大学 眼科学教室 助教）

第77回臨床眼科学会にて「未熟児網膜症に対してベバシズマブ併用療法を受けた小児網脈絡膜構造（J-CREST study）」の演題で発表させていただきました。改めて日頃よりご指導いただいております緒方教授、西先生にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。今回はあまり噛まずに発表できたので一歩前進です。小学生の頃は国語の音読は結構得意だったのですが、いつのまにか滑舌悪いキャラになっていました。小学生の頃の写真を見ると、自分で言うのもなんですがまあかわいいことかわいいこと！！このまま成長していれば人生イージーモードだったと思うと残念でなりません。「十で神童、十五で才子、二十過ぎれば只の人」この諺で締めさせていただきたいと思っております。



西山 武孝 (奈良県立医科大学附属病院 眼科 医員)

第77回臨床眼科学会総会に参加しました。今回、私は「輪部幹細胞疲弊症に対して口腔粘膜由来培養上皮細胞移植を施行した一例」というタイトルで学術展示発表をさせて頂きました。これまで治療選択肢の少なかった輪部幹細胞疲弊症に対して、自家培養上皮細胞を用いることで背景疾患の制限がほとんどなく上皮幹細胞の移植手術を行うことができるという画期的な治療法に関する症例報告でした。また、自身での発表以外にも、他大学の発表内容や、インストラクションコースでの白内障術中トラブルの対処法や感染性角膜炎の診断法に関する講義を拝聴し大いに刺激を受け、日々の臨床への意欲を新たにすることができた有意義な学会でした。発表に際しご指導ご鞭撻頂きました緒方教授、上田先生、辻中先生には、この場を借りて御礼申し上げたく存じます。ありがとうございました。

AAO2023のご報告

西山 武孝 (奈良県立医科大学附属病院 眼科 医員)

アメリカ眼科学会議(AAO2023)に参加しました。新型コロナウイルスの流行もあったことからここ数年国際学会参加に対する自粛の流れが強かったこともあり、私としては今回が初めての国際学会参加となりました。今回、私は発表等はありませんでしたが、欧米における眼科診療の最前線を学ぶという目的で、緒方教授のご厚意もあり参加させて頂くことが出来ました。

緑内障の講演では、点眼アドヒアランス不良の患者に対する対応に関する内容が中心であり、また1日を通してSLTの重要性が盛んに議論されていました。日本とは違い皆保険ではなく、緑内障点眼を長期間継続するのが患者背景からも社会的背景からも難しいことが根底にあるのではないかと感じました。角膜の講演では、日本でも話題になっていますがAIを用いた感染性角膜炎の診断に関する内容や、フックス角膜内皮ジストロフィーに対して移植ではなく、中央部のデスメ膜角膜内皮を剥離するのみで手術終了し、その後グラナテック点眼により角膜内皮遊走を促進するDSO/DWEKという術式で75%の治癒率が得られたという報告がとても印象的でした。

今回参加のお誘いを頂いた緒方先生、本当にありがとうございました。お陰様でとても貴重な経験ができました。お陰様でこの場を借りて御礼を申し上げます。



論文のご報告

平井 宏昌 (奈良県立医科大学 眼科学教室 助教)

1. En-Face Optical Coherence Tomography Is Useful for Assessing Striated Lesions in Angioid Streaks: A Case Report.
Takeuchi T, Hirai H, Ogata N, Ueda T.
Cureus. 2023 Sep 26;15(9):e45983.
2. Development of an Eccentric Macular Hole Followed by Reopening of the Original Macular Hole as a Long-term Sequelae of Internal Limiting Membrane Peeling and Focal Laser Photocoagulation: A Case Report.
Takeuchi T, Hirai H, Jimura H, Tsujinaka H, Ogata N, Ueda T.
Cureus. 2023 Aug 30;15(8):e44406.
3. Cytomegalovirus Retinitis in a Patient Taking Upadacitinib: A Case Report.
Hirai H, Akai Y, Ogata N, Ueda T.
Cureus. 2023 Nov 05;15(11): e48337.

この度、竹内先生と共著で2編、地域医療学講座の赤井 靖宏先生と共著で1編をCureus誌に掲載させて頂きました。いずれも、インターネット上でオープンアクセスのため、もしご興味がありましたら一度お目通しいただけますと幸いです。論文作成にあたり、文献を調べ、改めて勉強させて頂きました。論文内容に関しまして、コメント頂きました医局の諸先生方、またお忙しい中、貴重なご指摘を頂きました赤井先生には心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

夏の同窓会のご報告

西 智 (奈良県立医科大学 眼科学教室 講師)

2023年7月2日(日)にシェラトン都ホテル大阪にて奈良県立医科大学眼科同窓会勉強会を開催いたしました。一般演題1「明日の診療に役立つ神経眼科」と題して、特に若手の先生に心得ておいてほしい神経眼科のいろはをわかりやすくお伝え出来たと思います。奈良県立医科大学眼科 臨床教授/よしかわ眼科クリニック院長吉川匡宣先生の一般演題2「内因性光感受性網膜神経節細胞と緑内障：LIGHT study」は、これまで続けてこられた緑内障スタディを簡潔なスライドでわかりやすく解説いただきました。

特別講演の京都府立医科大学眼科学教室 客員教授 横井則彦先生による「ドライアイとその関連疾患 診方、考え方、治し方」は、現在世界の注目を集めている、涙液層の破壊メカニズムに視点を置く、TFOD(眼表面の層別診断)、TFOT(眼表面の層別治療)をはじめとして、まさに明日の診療に役立つ知識をご教授いただきました。とても勉強になるご講演をいただきありがとうございました。



外来診察表

		月	火	水	木	金
1診	午前		上田		緒方	西
	午後	西 小児・神経眼科外来	網膜硝子体外来	吉川 緑内障外来 ※予約のみ	網膜硝子体外来	小児眼科外来
2診	午前	後岡	大熊 (第1・3) 小児・黄斑外来	丸岡 (第1週)	小林 (第1・3・5)	水澤
	午後	網膜硝子体外来	中尾 (第2・4・5)	丸岡 (第3・5週)	峯 (第2・4)	専門外来
3診	午前	竹内	治村		水澤	手術日
	午後	網膜・ぶどう膜外来	網膜硝子体外来	辻中 (角膜外来)	網膜、小児外来	専門外来
4診	午前	藤原	平井		竹内	手術日
	午後	緑内障外来	網膜・ぶどう膜外来		網膜・ぶどう膜外来	専門外来
5診	午前	西山	倉岡		西山	手術日
	午後	平井	倉岡		西山	専門外来
6診	午前	寺田	森本		井本	
	午後		森本		井本	

- ・ 専門外来は完全予約制です。
- ・ 初診の場合はまず、月・火・木の外来を受診するようお願い致します。
- ・ 地域連携の予約は月が6名、火・木が8名、水・金は5名可能となっております。



編集後記

平素は奈良県立医科大学眼科学教室の運営にお力添え頂き、誠に有難うございます。ニュースレターは、今回で26回目の発行となりました。今回は緒方先生在任中の最後のニュースレターとなりました。7月開催の第39回日本眼循環学会をメインにご報告させていただきましたが、いかがでしたでしょうか。ニュースレターでは引き続き、同窓会の諸先生方からのご投稿をお待ちしております。

tomon@naramed-u.ac.jp 奈良県立医科大学 眼科 西 智